

## 平成29年度 大阪府立むらの高等支援学校 第一回 学校協議会記録

日 時：平成29年7月6日（木）15：00～17：00

司 会：教頭

出席者：学校協議会委員（6名）

大阪人間科学大学（特任教授）㈱エルアイ武田（人材開発室 室長）

大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）

北河内西障害者就業・生活支援センター（主任就労支援ワーカー）

枚方市村野区（区長代理）本校PTA（会長）

学校長 事務局（9名）

### 1 資料の確認および次第説明（教頭）

### 2 校長挨拶

開校3年目をむかえ3学年揃った。4月より多くの教員が配置され、3ヶ月たち、ようやく落ち着いてきたところ。今年度もよろしくお願いしたい。

### 3 委員紹介、委嘱状交付（教頭）

### 4 事務局員紹介（教頭）

### 5 学校協議会設置要項・学校協議会運営計画について説明（教頭）

委員の中より会長を選出。拍手を持って大阪人間科学大学（特任教授）を承認した。会長より、職務代理者の選出の要請があり、㈱エルアイ武田 人材開発部室長を承認した。

### 6 報告

① 意見書に「宿題を増やしてほしい」という投書があった。会長と協議し、学校運営の範疇であるので学校対応とすることにした。

② 平成29年度学校経営計画について（校長）

昨年度の「学校教育自己診断」の課題が多い要項を中心に作成した。

中期的目標の5項目を中心に取り組みを進めていきたい。

③ 平成29年度授業時間割・教育課程について（管理部長）

今年度は「自立活動」の時間帯を新設した。3クラス4展開の授業は昨年度より引き続き実施している。金曜日は3年生の専門学科の授業が1時間めから7時間めまで一日通しの時間帯で設定。それと並行して数人ずつが専門学科より抽出され、接客の実践実習としてカフェの営業を担当している。

④ 特色ある取組「平成29年度本校の自立活動の取り組み」についての実践を紹介（リーディングスタッフ）

昨年度より、自立活動についてより深めたほうがよいという声が教員よりあがっていた。

それを受けて、朝と帰りに分かれていた自立活動の時間を集めて、毎朝30分間を1時間めの活動とし、支援部主導でプログラムを提示し、全教員で取り組んでいる。コグニショントレーニングを取り入れ、体のコントロールなど6項目を中心に毎日実施している。

⑤ 学校評価（授業参観アンケート①）集計結果について（支援部長）

概ね好意的な意見をいただいた。

中に、授業への生徒の参加度合いについて意見があった。生徒が主体的に授業に参加できるためにはわかることが大前提。現在実施している公開授業のテーマ「見える化」について昨日教員研修を実施したところ。

また、学習環境の整備については厳しい意見があり、学校として真摯に受け止めて改善していかなければいけない。いただいた意見は全教員で共有している。

⑥ 平成29年度使用教科書紹介および平成29年度使用教科書選定状況について（管理部長）

全体会議や教科会議を経て決定している。生徒にとってわかり易い、卒業後も利用できるものを選定している。

## 7 協議

会長：報告がたくさんあり、経営計画も盛りだくさんであった。協議に関して時間配分をしたい。

前半は「平成29年度学校経営計画」後半は「自立活動」について。

「学校経営計画」は昨年度の本協議会の報告も参考にしながら意見をいただきたい。中期的目標1～5について協議したい。

『メッセンジャー』としての『共生社会』作りの参画が3つめの中期的目標として打ち出されているが何故「メッセンジャー」なのか？

校長：教員の本来の仕事は授業だが、人を育てる意味では教員自身も様々な社会とつながり、新しいことを外部から学ばなければいけないのではないかと、昨年の本協議会の委員よりご意見をいただいたため設定した。

会長：高等支援学校は、教員が地域に働きかけることが大切。

委員A：就労支援を行っているが、就労後にいかに働き続けることができるかが重要である。学校卒業後、教員は3～5年位で転勤されるが、その組織でどうやって卒業生を支えていくのか、どの学校も課題となっているように見受けられる。むらのは先進的なことに取り組んでいるので期待したい。

会長：地域社会で健常者との平等性をめざし、ビジョンを持つことが大事。健常者と障がい者が対等な立場になってほしい。

委員B：ソーシャルワーカーとして働いていたが、地域で暮らしていくために困った時に相談する、ということを教員が生徒に提示していければよいと思う。授業でどう取り組んでいくかが大事ではないか。

会長：世の中を共生社会にしていくのは難しい。支援学校の教員がメッセンジャーとなって地域の意識改革をしてほしい。そのためには「社会に開かれた教育課程」を考えていく必要がある。

委員C：初任教員の企業研修はとても良い取り組みである。実習を依頼してくる前に、まず支援者が企業で研修をしてみたいという機関は信頼できる。先の報告の中の「発達検査」に取り組んでいくことは良いと思う。知的障がいの方は自分を理解しにくい。検査結果のフィードバックは自己理解につながり就労後の定着にも役に立つ。定着には生活面など基礎的な部分が大切である。

会長：初任教員の企業研修について、参加した教員の反応はどうか。

事務局：研修は疲れるようだが、得たものは大きい様子。今年度は「ジョブコーチ的役割を考えながら参加してほしい」と初任教員に伝えている。

事務局：私は27年度に初任で㈱エルアイ武田へ研修に行った。実際、たいへんだったが、当時支援学校の経験がなかったため、その研修経験は、わかりやすい仕事の提示方法などその後の授業などに役立っている。

会長：世の中をユニバーサル化していくためには、有効である指導・支援方法を支援学校から発信していくことが必要。  
メッセンジャーとなって頑張ってほしい。

委員A：発表の中の「シラバス」とは何か？

校長：3年間の授業計画のこと。評価などももりこんでいる。

委員A：目的意識はどのように持って作成しているのか？

事務局：昨年度、学年別から3学年通したものに変更した。どの教科も「生きる力」をつけることを目標におき、系統だててステップアップしていく内容にしている。また、行事などを核に教科間でつながる内容も盛り込んで作成した。

会長：防災などでの地域とのつながりは、どのようになっているか？

委員D：地域で避難訓練を行っているが、参加者が少ないことが悩み。大きな災害後でなければ意識が向かないようである。大阪は災害が少ないので意識が低いと感じる。

会長：災害時には支援学校も地域住民を受け入れているのではないか。

校長：先週参加した、東京での校長会で防災のことが話題になった。熊本の支援学校では、被災後に地域住民が押し寄せ、教員が10日間対応したと報告があった。様々な対応に困惑したが、自治会の方と顔見知りだったため乗り切ることができたようだ。

会長：学校は地域とつながることが大切。

学校経営計画に5項目あるが、PTAの立場で何か関心のある項目はあるか？

委員E：新任教員が全員企業研修に行っているのは知らなかった。府立支援学校会長交流会に先日参加したが、そんな取り組みをしている学校はないようだ。知っていればぜひ本校の取り組みをアピールしたかった。  
保護者が知れば、教員の苦労も共有できる。

会長：府教育庁主導で、民間企業研修のプログラムがあるが限られた教員しか参加できない現状である。

委員E：派遣の順番が決まっているのか。

- 会長：参加できる人数は少ない。むらの初任研修の取り組みはよい視点である。
- 委員E：PTAを通じて周知させていきたい。
- 会長：自立活動実践紹介について意見をいただきたい。取り組みの意図と反応は校内でどうか。
- LS：開始したばかりなので効果はまだこれから。「気づき」を意図としている。生徒の得意不得意を発見する意味の「気づき」と支援学校の経験の少ない教員の基礎を「築く」意味で、この取り組みがきっかけになればよい。
- 会長：委員の皆さんには「自立活動」は聞きなれないことばだと思う。自分は自立活動が専門だが、学習指導要領に内容が示されている「人間関係の形成」など新しい項目も増えている。むらの中にはコミュニケーションがうまくとれない生徒が多いのではないか。今後は得意なこと、苦手なことを発見することが大事。
- 委員E：長所は伸ばして、短所は否定せず認めさせることが大事では。長所短所を自分から発信できれば、会社とのマッチングもうまくいくと思う。
- 会長：以前は根性論が主流だったが、これからは自己の発見が大切。
- 委員F：自分がどのような人間か理解できればよい。フォローできる体制づくりを3年間で整理できるか。
- 会長：教育課程の変更の成果がどうでるか。
- 委員A：6項目は自分の事業所で訓練として実施している。技術とコミュニケーションとの相関関係のデータをとった。結果、技術が向上するとコミュニケーション能力もあがった。
- 会長：むらのでの取り組みは「自立活動」の本質を理解しようとする内容である。
- 事務局：4月当初に教員研修を実施した。できないことを生徒のせいにならず、どう工夫すればできるようになるか考えてほしいと伝えている。何ができて何ができないか、サポートがあればできるのかなど、取り組みはこれからである。
- 会長：できないことを子どものせいにはしない、というのは重要なテーマである。自立活動の時間を設定した意義は大きい。
- 委員C：就業現場では、全員が100点である必要はない。できることをひとつずつ伸ばしていき、皆が力を合わせて仕事ができればよい。得意不得意が分かり、周りにアピールしながら常に少し上をめざしていくことが大事。
- 委員F：10数年前より地域につながる支援を行っているが、成果がでるのは10年後。先を見越した支援が必要。
- 会長：社会で生きていくスキルを身につけることが学校の役割である。

の内容と似ている。高校でも発達障がいの生徒が増えて、支援学校との境界線がなくなりつつある。ある機関では野球を通じて会を立ち上げ就業者の余暇支援を行っている。むらのは来年卒業生が出る。地域が助けてくれるような支援体制が必要になるので、今後ともよろしく願いしたい。

#### 9 事務局より（教頭）

皆様方に応援していただいていることを感じた。また意見を取り入れていろいろなことに取り組んでいきたい。

記録をまとめるので確認していただき、ホームページにアップする。

次回は 11 月 24 日（金）、懇親会も予定している。

#### 10 閉会（教頭）